

中酪情報 No.566

2016年11月30日発行
毎号奇数月末発行

発行：一般社団法人 中央酪農会議
編集・発行人：内橋政敏
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295

ご意見・ご感想をお寄せください。

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

宛先及びお問合せ先

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
一般社団法人 中央酪農会議「中酪情報」編集部
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
<http://www.dairy.co.jp/>
(中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます)

編 集 後 記

台風によるトウモロコシの倒伏や長雨による牧草の収穫遅れなど、今年は飼料作物の被害が心配された一年でした。このような状況の中、輸入飼料に大きく依存するわが国の酪農関係者にとって、国際市場の動向が気になるところです。

米国農務省（USDA）は、米国の農業政策に要するコストを予測するとともに、米国における農産物貿易の動向を予測するため、中期的な食料需給見通しを定期的に公表しています。11月9日には、2016/17年度7回目の「世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通し」を公表しました。

それによると、とうもろこしの生産量は、中国における国家備蓄政策の廃止、国内価格低下に伴う播種面積の減少、7～8月に黒竜江省西部及び内モンゴル自治区を襲った乾燥型の天候等により減少するものの、米国で中西部の多くの州で単収が前年度を上回り増加し、ブラジルでも国内価格が比較的高いことから南部で夏とうもろこしの播種面積の増加が見込まれること等から、世界全体では史上最高となる見込みです。

他方、消費量は米国、中国、ブラジル等で増加することから史上最高となる見込みですが、世界全体の生産量が消費量を上回るため、期末在庫量は2億1,819万トンで対前年度比4.2%増と予測されています。